

2024 7/23

No.2215

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



第106回全国高校野球選手権神奈川大会の開会式が5日、横浜スタジアム（横浜市中区）で行われ、168校（合同6チーム）の3123人がグラウンドを1周した。7日に熱戦の火ぶたが切られ、24日に甲子園出場校が決まる予定。



視点点描	
他者の文脈に触れる	3
特集	
男子バレーに注目 パリ五輪 飛び出せ海外 大会は曲がり角	4
経済双眼鏡	
新紙幣あれこれ	8
よんななエコノミー	
観光の高付加価値化	9
水谷竹秀×リアルワールド	
ワーホリに何を求めるのか	10
馬場典子のNEWS箸休め	
×「せいしょう・なごん」	11
本郷和人 歴史の舞台をゆく	
伊達は「だて」か「いだて」か	12
神奈川景気データファイル	
	14

事務局だより

◇2024年8月定例講演会
8月22日(木)午後1時30分～3時
メルヴェーユ(みなとみらい21)
講師：日体大理事長
松浪 健四郎 氏
演題：「中東の文化とイスラム教の人々」

◇2024年9月定例講演会
9月30日(月)午後1時30分～3時
崎陽軒本店(横浜駅東口)
講師：崎陽軒代表取締役社長
野並 晃 氏

【お知らせ】神奈川政経懇話会の総会后理事会(書面決議)が行われ、理事長の須藤浩之・株式会社神奈川新聞社代表取締役社長と、専務理事の原田一之・京浜急行電鉄株式会社代表取締役会長など、役員が再任されました。

視点 点描



他者の文脈に触れる

文芸評論家の三宅香帆さんが執筆した『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』（集英社新書）が売れている。

帯文にこうある。「疲れてスマホばかり見てしまうあなたへ」。書名とこの文を目にして、自分のことだ、と思わず手をのびした人も多いのではないか。かく言う私もその1人である。

人はこのシーンが「身につまされた」と幾度も語ったそうだ。「活字中毒」だった著者も働き始めると本を読めなくなり、仕事を辞めた。疲れてスマホばかり見ていた日々が執筆の背景にある。

著者の分析によると、近年の読書離れは客観的事実だが、平成に入ってからは『脳内革命』や『夢をかなえるゾウ』といった自己啓発本が読まれてきた。

こうした本は一種の「片付け本」と似て、自分の私的空間だけを浄化し、コントロール不可能な外部は「ノイズ」として排除する内容だと説く。

「ノイズ」とは、自分と異なる価値観、自分ではコントロールできない事象、あるいは自分とは関係がないと感じる情報のことだ。

仕事の効率化のために「ノイズ」の除去に腐心しているのが今の日本の働き方ではないか。著者の

指摘に深くうなづく。

自己啓発本もいいが、ままならない他者の存在や未知の文脈を知り、ネットで自分が欲しい情報、心地よい情報に触れるだけの現代は「ノイズ」が大事だと訴える。

自己責任論が幅を効かせ、人事考課で自発性すらも知らず強制される。文化と労働の両立が困難なほど人々を疲弊させる働き方を内在化したのが今の日本なのだろう。「全身全霊」で働くよう仕向けられている社会から「半身」で働き、半身は読書や休養に使う。そんな余裕のある社会へ。著者の提言が心にしみる。

攻撃的でギスギスした言葉が飛び交う昨今。遠く離れた他者に思いをはせ、未知の考えや感情に触れるような読書体験を重ねたい。

（神奈川新聞社文化部長・

桐生 勇）